
Over Sacrifice

浅野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Over Sacrifice

【Nコード】

N0511B

【作者名】

浅野

【あらすじ】

数年前にゲームセンターでプレイされるようになった人気ゲーム「Over Sacrifice」最近ではユーザーが増し様々なシステムが取り入れられ今では本物のロボットを動かしている気分が味わえます。

多き犠牲

Over Sacrifice

作：浅野 雄

序章

激しい銃撃戦、銃声の音がハッキリと聞こえてくる。

俺は少し離れた場所で銃撃戦の様子を眺めていた。銃撃戦を眺める間、剣を握る掌が汗ばんでいく気がする。いや、この場合はトリガーを握る手が汗ばんでいくと言えば正しいか。

俺の機体には銃撃戦に耐えられるだけの装甲はありはするが、遠距離武器のウエポンは他の機体と比べて圧倒的に少ない。だから、こうして銃撃戦から離れてメインモニター越しから観察しているわけだ。なに、戦線離脱をしているわけじゃない。これも作戦のうちだ。そんなこんなで眺め始めて数分、使用していなかった小さなサブモニターからようやく連絡がきた。司令塔となる機体が見つかったのだ。

剣を腰に着けられた鞘に収めると一度トリガーから手を離し、汗ばんだ手を着ている服で拭き、再びトリガーを握りブースターを使うため右ペダルを強く踏み込んだ。激しいエンジン音とともに、機体が前方に動き振動がコックピットまで伝わってくる。銃撃戦の中を左のトリガーを左右に動かしたり、左のペダルを使いジャンプするなどして、極力被弾しないように抜けていく。時には唯一使っている遠距離武器のガトリングで敵機に被弾を負わせ、先に進んでいく銃撃戦の中を抜けると奥には数十機の機体が待ち構えていた。最悪なことに後方からも数機がこちらを追跡しながら、銃やレーザーを撃ってきている。一度機体を止め勢いで前進しながら、反転し強く右ペダルを踏み、後方から追ってきた機体に急接近していく。

攻撃範囲内に入ると腰から剣を抜き、右のトリガーをうまく動かし、

言いたいことを言って通信を切りやがった。別にノロマでも八ゲてもいない。ましてや学校の成績はどんぐりの背比べだが俺のほうが上だ。最後の死ねはアイツが言うとなぜか心が痛むみそうだが、腹が立つことに変わりはない。後で思いっきり殴ろう。そして、こうした罵倒を浴びさせた原因である敵機を思いっきり切り刻んでやるう。俺はそう心に誓った。

エレベーターが上がってくると、すぐに乗り込み、地下に向かった。別に階を決める必要がなく、ただ下りるだけなのでその辺は調べる必要がないため楽だ。

メインモニターに映るのはエレベーターの鉄そのものの色と赤いランプだけだ。おそらく、下りる時間も数分かかるだろう。持っていた刀をしまい、膝辺りから伸びる短剣の柄を引き抜いた。

おそらく剣を振るだけの十分な広さではないと考えたからだ。レーザー系のウエポンを使いたいところだが、ここまで来るのに防御のほうにエネルギーを使いすぎた。それに、レーザー系のウエポンを使うと威力は高いが、その代わりに機体を動かすためのエネルギーも消費してしまうため、稼働時間も少なくなってしまう。極力長い時間稼働に使用するため、物理武器だけで勝負を決めたいところだ。

エレベーターが止まり、ドアが開いた瞬間だった。
バシユンツ！

青白く巨大なレーザーが飛んできた。

エレベーター内にいたため避けるだけの広さが無く、残りのエネルギーで防御しきれず俺の機体は激しく揺れながら、消えていった。

G A M E O V E R

モニターにはゲームで負けるとほぼ必ずでる文字が映っている。つまりまるところ俺は負けた訳だ。両膝辺りから伸びるレバーから手を離し、敗北感を味わいつつもモニター下に挿されたIDカードを取り出し席を立つ。畳一畳分ほどの広さで作られたゲームボックスから出ると、外は五月蠅く感じるほどの様々なゲーム音が入り混じり雑音として聞こえてくる。

俺が先ほどまで入っていたゲームボックス同様の物が両隣にも、その奥にも俺の後ろにも同じものが配置されている。

今更ながらこれはゲームだ。『Over Sacrific』と呼ばれる。ガーディアンと呼ばれるロボットを動かしてバーチャル対戦することができ、オンラインにも繋がっており全国対戦もできる人気ゲームの一つだ。

今でもゲームボックスの中では先ほどの対戦が行われているのだろう。奥のほうで個々の指定で見たモニターと大きな中継モニターで対戦の様子が映っている。

これを見る限りではおそらく、こちらが負けるだろう。

たぶん出てきたら、俺をさっきまでひたすら罵倒してきた奴が再び文句と罵倒を言いに来るだろう。来た瞬間殴ってやる。

そんな事を思いながら、ゲームボックスに寄りかかり、モニターで成り行き眺め始めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0511b/>

Over Sacrifice

2010年10月10日01時54分発行